

環境王国  
こまつ  
里山通信  
旧那谷村地区

日本の原風景が残る、  
信仰の歴史と豊かな  
自然に囲まれた里山

環境王国こまつ里山通信 旧那谷村地区 2016年4月発行 発行：こまつ SATOYAMA 協議会 〒923-0335 石川県小松市滝ヶ原町ウ20 TEL:0761-65-2436

里山の農産物は下記にて  
お買い求めいただけます。

道の駅こまつ木場潟  
石川県小松市蓮代寺町ケ2-2  
TEL：0761-25-1188  
営業時間：8:30～18:30  
(11月～3月は18:00まで)  
<http://www.michinoeki-kibagata.com>

里山自然学校こまつ滝ヶ原  
石川県小松市滝ヶ原町ウ20  
TEL: 0761-65-2436  
<http://satoyama-komatsu.com>

※毎月2回程度開催する里山食堂  
の開催に合わせて出店します。  
詳細はホームページをご覧ください。



環境王国こまつ

小松市は自然環境と農業のバランスが保たれ、安心できる農産物の生産に適した環境が認められ平成23年10月に北陸三県の自治体としては初となる「環境王国」として認定されています。



アクセス情報

小松空港から旧那谷地区まで車で25分  
小松駅から旧那谷地区まで車で23分





滝ヶ原から見る鞍掛山

## 深田久弥が愛した鞍掛山

著書『日本百名山』で有名な深田久弥は小松市の隣、加賀市の大聖寺が生まれ故郷。深田久弥が『日本百名山』の執筆の合間に登った山が鞍掛山だ。低山ながらその山頂からの霊峰白山の眺望は素晴らしく、深田久弥は毎回、白山の美しい姿を観るのを楽しみに登っていた。

鞍掛山は鞍を置いたような形が特徴的で、北前船がこの山を目印にしたことから、別名「舟見岳（船見山）」とも言われている。初心者でも気軽に登れる山で、登山道には美しい自然が広がる。滝ヶ原登山道口付近では地元有志によって造られたトンボの楽園があって、ハッチョウトンボをはじめ、貴重な生物の観察が楽しめる。

## 貴重なアーチ型石橋

滝ヶ原で産出される滝ヶ原石の歴史は古く、金沢城、小松城の石垣、近畿地方や北海道方面まで運ばれた。明治後期から滝ヶ原石で作られたアーチ型の石橋が五つ残っており、国内で一つの地域でこれだけまとまって石橋が架けられたのは九州地方以外では滝ヶ原だけだ。

東口橋



那谷寺  
小松市那谷町ユ1 2 2  
TEL:0761-65-2111  
拝観時間 / 8:30 ~ 16:45  
(12月~2月は8:45 ~ 16:30)  
定休日 / 無休

## 信仰の歴史と豊かな自然に 恵まれた旧那谷村地区

石川県の西南部に広がる豊かな加賀平野の中央に位置し、日本海に接する小松市。明治に那谷村、菩提村、滝ヶ原村の三村が合併してできた旧那谷村地区は、小松市の南西部に位置し、標高百〜五百メートルほどの里山に囲まれた自然豊かな地域。

地域の名称の由来であり、歴史を語る上でも欠かせないのが、那谷寺の存在。平成二十九年に開創千三百年を迎える古刹・那谷寺は、養老元年（七一九年）に白山を開山した泰澄たいさうによって開創された白山信仰の寺。

境内には途方もない長い年月を経て形成された奇岩遊仙境きがんゆうせんきやうなど、非日常を感じさせる美しい景色が広がり、松尾芭蕉も『奥の細道』

の道中に那谷寺を訪れ、その景観を褒めたためて句を残している。

その那谷寺の名を命名された花山かざん法皇が最後にいられたと言われているのが那谷寺からほど近い菩提町。花山法皇が北陸行幸を終えて京都に帰る途中に崩御ほうぎょされたのでここ菩提の地に埋葬したとの言い伝えがあり、そのため菩提という名前がついた。菩提町は山に囲まれた盆地にあり、西の山を「院の山」、東の山並に「法皇が丘」、地名にも山門橋、御所婦、参上婦、祭田、若宮など皇宮に関連した地名が残っている。





里からほんの少し山に入れば、ゼンマイやコゴミ、タラの芽など、豊かな里山の恵みに出会える。

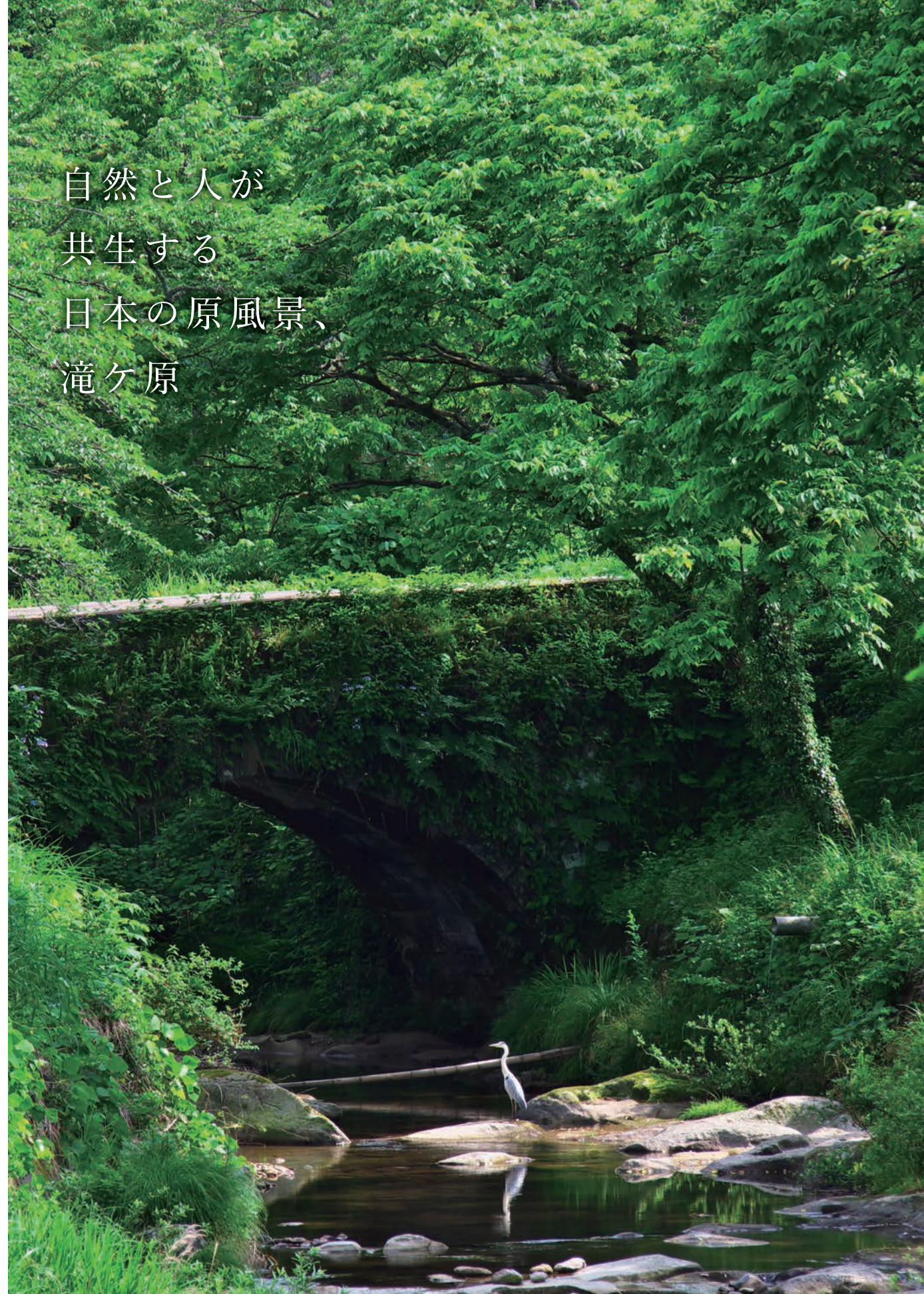


里山は人間と自然界をつなぐ場所である。サギやウグイスなどの鳥、ホタルや赤とんぼなどの昆虫、水田の緑や黄金色の稲穂、紅葉、四季折々の山野草や山菜。滝ヶ原の里山の美しい景観は日本人の原風景である。その景観は手つかずの自然ではなく、そこに住む人が手を加え続けているから保たれているものだ。

里山で採れるワラビやミョウガタケ、カタハ（ミズ）などの山菜や、滝ヶ原で栽培している赤かぶなどの野菜は、豊かな土と、きれいな水、澄んだ空気に育まれ、どれも滋味深く美味しい。

「神が田園（農村）をつくり、人間が都市をつくった」というイギリスの詩人、ウイリアム・クーパーの有名な言葉があるが、里山というのは神と人間の共作であり、自然と人が共生する場所だ。

# 自然と人が 共生する 日本の原風景、 滝ヶ原







里山ノルディックウォークと食事交流会

この場を拠点とした里山保全活動を通して、里山の豊かな食材、食文化の再発見とその普及、発信も行われ始めている。

「そび」など、里山の豊かな資源を活用した様々な活動が行われていて、環境や里山を学ぶ大学生や外国人の研究活動の受け入れも行っている。

平成二十三年（二〇一一年）に一三八年の歴史を閉じた那谷小学校滝ヶ原分校と保育所跡を再利用して「里山自然学校こまつ滝ヶ原」が開校。ここを拠点に市民参加型の様々な塾活動、里山食堂、山菜検定、ジャズコンサート、「里まなび里あ

## 里山の豊かな 自然を生かした 様々な活動の拠点として



●里山自然学校こまつ滝ヶ原で行われている塾活動の例

- ・石の里サイクリング
- ・山菜ウォークと文字ポイントを食事交流会
- ・アーチ型石橋と社会見学体験
- ・里山の押し花作り体験交流会
- ・ホテル観察会
- ・里山ノルディックウォークと食事交流会
- ・トンポの楽園環境整備活動
- ・里山サイクリング
- ・滝ヶ原町の雁皮採取体験
- ・秋の鞍掛山健康登山
- ・椎茸菌入れ体験
- ・里山の樹木調査と里山食事交流会
- ・自家製味噌作り体験
- ・星空観察会



里山食堂では、月2回、滝ヶ原のおかあさん達が、地元で採れる旬の山菜などを使って、体に優しく滋味深い手料理を食べさせてくれる。

◇里山食堂、里山自然学校こまつ滝ヶ原へのお問合せ  
〒923-0335 小松市滝ヶ原町ウ20 TEL:0761-65-2436

